

平成31(2019)年「宝石山正覚寺報」3月号

ご案内

お聴聞は、如来様の促しに遇いお念仏しつつ終にお喚び声に遇わせて戴く大切な営みです。

皆様どうぞご縁にお会い下さいませ。

正覚寺永代経 3月2日(土)13時半～

永代経にはお馴染みの田淵幸響布教使様にご出講戴きます。正覚寺オリジナルの仏教讃歌“ふとおおぎみるおすがたは”の作曲者でもいらっしゃいます。童謡や歌い継がれた歌をも含めて胸に染み入る“演奏ご法話”が営まれます。

皆様にはお誘い合せ賑やかにご参り下さい。

仏壮お聴聞の会 3月3日(日)20時～

仏壮恒例となったお聴聞の会です。皆様賑やかにご縁にお会い下さい。

仏婦例会 3月16日(土)19時半～

月に一度、如来様のお育てに合う大切な機会です。皆様賑やかにご参り下さい。

春の彼岸会 3月20日(水)14時、19時半～

恒例の春の彼岸会法要です。浄土真宗の救いのお法りを端的にお取り次ぎさせて戴きます。どうぞ皆様こそってお運び下さいませ。

お姿に遇い、お喚び声に遇わせて戴く体験

第十七願には、阿弥陀如来のお名号のお徳の素晴らしさを十方の諸仏方が讃嘆(さんだん=ほめたたえること)なさることが誓われてあります。名号のお謂われをお説き下さる讃嘆に留まらず、諸仏自ら称歎(=称名讃仰)なさるのでした。

この人間世界では、お釈迦様が讃嘆なさったのです。お釈迦様のお弟子様方がそのお姿を

仰ぎ、お声に聞き入られたのです。爾来(じらい)、七高僧を経て、法然聖人から親鸞聖人へと引き継がれました。

そしてとうとう、称えつつ、聞こえて下さるお喚び声に喚び覚まされる聞名(もんみょう)のお法りが親鸞聖人によって明らかにされました。

聞こえて下さるお名号は、私を喚び続けていて下さる阿弥陀如来直々のお喚び声だったのです。これを本願招喚の勅命(しょうかんのちよくめい)と申します。勅命を勅命と受けとめるとき、信心獲得し、衆生はお救いに与るのです。

「信心獲得の時剋(じこく)」の「そのとき」です。その瞬間、私は清らかな心の宝石を如来様から頂戴するのです。宝石山正覚寺の「宝石」です。

これを第十八願に相当するサンスクリットの御文では、はじめて愚かな胸の中に如来様の「智慧」が宿って下さると示されているのです。

御門徒さんのお速夜参りのある朝の出来事でした。お勤めを終って祖父母と住職がお念仏し合掌礼拝する姿を見た二歳の幼な児が「何をしてるの」と尋ねました。

二歳にして祖父母の称名讃仰(さんごう)の姿が目にとまったのです。

住職が「如来様のお喚び声をお聞かせに与っているの」と応えると「ふーん」と応えたかどうか、祖父母に連れて頭を垂れ、「ありがとう」とはっきりと口に出してくれたのです。

上がりがまちまで住職を見送り、頭を垂れ、「ありがとう」と繰り返してくれた姿を住職はしかとこの目で見届けたのでした。合掌。